学校番号	T3016

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	４年次
使用教科書	高等学校「世界史Ａ　新訂版」　（清水書院）						
副教材等	自作教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史を学ぶことは単に過去を知るだけではなく今を生きることでもあります。過去に起きた様々な出来事やその原因や影響を知ることで、現在を生き、そして未来に向かっていくことができるのです。日本の歴史も世界の歴史とつながっています。歴史という大きな時間軸を感じながら一緒に世界史を学んでいきましょう。

２　学習の到達目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
考査やプリント、レポートはもちろん、授業態度も重視します。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての資質を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	出席状況 授業準備 授業態度 授業プリント	定期考査 授業プリント レポート	定期考査 授業プリント レポート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	世界史へのいざない	・　自然環境と世界 ・　アメリカ合衆国の膨張 ・　南北戦争と日本の幕末	○ ○	 ○	 ○	 ○	a:世界と日本との関わりに関心を高めようとしている。 b:南北戦争の原因やその結果と日本の幕末とのつながりを適切に表現している。 c:原因と結果について適切にまとめている。 d:南北戦争と日本の歴史との関わりを理解し、基本的知識を身に付けている。	定期考査 授業プリント レポート
前期	世界の一体化と日本	結びつく世界と近世の日本 ・　ルネサンスと宗教改革 ルネサンス 宗教改革 カトリックの反撃	 ○	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	a:ルネサンスが古代ギリシャ・ローマの古典文化を復興させようとする文化運動であることに関心を高めようとしている。 b:ルネサンスがイタリアで始まった理由や宗教改革の原因について考察し、適切に表現している。 c:ルネサンスの芸術家の業績をまとめている。 d:基本的事項について身に付けている。	定期考査 授業プリント レポート
後期	世界の一体化と日本	ヨーロッパの工業化と国民形成 ・　アメリカ独立革命 独立前の 13 植民地 本国イギリスとの対立 独立戦争 合衆国憲法の制定	 ○ ○	 ○ ○	 ○	 ○ ○ ○	a:アメリカの独立について関心を高める。 b:本国イギリスと植民地の対立原因について考察し、適切に表現している。 c:イギリス 13 植民地の場所と現在のアメリカ合衆国の大きさを図で捉えている。 d:基本的事項について身に付いている。	定期考査 授業プリント レポート

後期	世界の一体化と日本　地球社会と日本	世界戦争と平和 ・　第二次世界大戦の勃発 　第二次世界大戦の終結 ・三つの世界と日本の動向 ・地球社会への歩みと課題 ・持続可能な社会への展望	 ○ ○ 	 ○ 	 ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○	a：米ソ両陣営の対立と日本の動向の関わりに関心を高めようとしている。 b：市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展について適切に表現している。 c：原因と結果について適切にまとめている。 d：現代世界の特質や課題を理解し、基本的知識を身に付けている。	定期考査 授業プリント レポート

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。